

3.11を忘れない

INORINO KIZUNA

祈りの絆

第29号

2014年12月17日 全国発送

日本バプテスト連盟東日本大震災被災地支援委員会 <http://www.bapren.jp>

【震災募金口座】 振替 00140-9-180881
宗教法人日本バプテスト連盟総務部

震災募金にご協力ください 一般募金目標：1400万円

11月実績632万円

アト 768万円

上記の他に海外からの原発対応指定募金（500万円）を求めています。

目標までの不足額768万円

<10月、11月募金者（受付順、敬称略）>

32名（口）の方々から献げられました。

関西黎明、筑波、東大阪、中野、川越、市川八幡、福岡、久保祐子、東北バプテスト連合女性会、調布、相模中央、仙台地区バプテスト伝道協議会、太田、鹿児島、菊池シオン、古賀、目白ヶ丘、恵、飯塚、仙川、豊橋、百合丘、太田、高崎、中野、相浦光、調布、シカゴ国際日本語、山形、藤沢、宮崎、高須

2014年度活動項目（以下の活動に使用されます）

2014年度活動項目（以下の活動に使用されます）	予算額
現地支援委員会による仮設及び在宅被災者訪問支援経費	850万円
東北外からのボランティア交通費支援等	190万円
福島第一原発事故による被災者対応（保養program等）	645万円
委員会機能（委員会開催、広報活動、人件費、諸経費）	349万円
合計	2034万円

※活動には募金に加えて海外からの原発対応指定募金と前年度繰越金を充当します。

世界教会協議会中央委員会

「声明：核から解放された世界へ」（その2）

原発課題班担当 濱野道雄

11月の連盟定期総会で声明「私たちは九州電力川内原子力発電所の再稼働に反対します」が採択されました（<http://www.bapren.jp/uploads/photos/730.pdf>）。今、時を得て、世界中のキリスト教会が、その信仰的理由から、脱原発、脱核へむけて声をあわせ始めている、それに共なる私たちの一歩とも言えるでしょう。前回から2014年7月に世界教会協議会（WCC）中央委員会から出された「声明：核から解放された世界へ」という声明を掲載し、その信仰的理由と教会がなすべきことを考えています。どうぞお読みください。（異なる訳文ですが、日本語訳全文「核のない世界に向けた声明」を日本バプテスト連盟のホームページから読むことができます。

<http://www.bapren.jp/uploads/photos/718.pdf>）。

世界教会協議会中央委員会「声明：核から解放された世界へ」より抜粋（2）

（D. マッキントッシュ、川上直哉訳）

「ヒバクシャ」と「ピポクジャ（韓国朝鮮人の原爆被害者）」が、そして、核実験場の犠牲者が、核時代からの脱出（出エジプト）を求めて叫んでいます。この声を聴きましょう。遺伝子の異変によって身体の形を変えられた人々がいます。核実験によって大地と海を毒された人々がいます。核事故（原発事故）によって農場や市街を汚された人々がいます。職場で被曝を受けるウラン鉱山や原発の労働者がいます。私たちは、核によって傷つけられたすべての人々の苦しみに、耳を傾けなければなりません。

悪から私たちを解放する神は、核という悪からも、私たちを解放し給うでしょう。全世界が破滅に瀕したその時、神はすべての被造物を含みこむ契約を開いてくださいました（創世記9章）。神の霊はすべての被造物を支えてくださいます（詩編104編）。人々を搾取する

ことと、被造物を破壊することとは、切り離しがたく一つです（イザヤ書23章）。——こうした神の言葉は私たちを導き、被造物の中に現れる神の臨在と神の目的に気づかせて下さいます。この神の言葉は、被造物のすばらしさを汚すことへの警告として響くのです。そうして私たちは、全ての被造物が驚異・祝祭・賛美に値するものであることを、改めて思い起こすことができるのです。

神は命と死を私たちの前に置かれます。祝福と呪いを、私たちの前に置かれます。私たちと私たちの子孫が生きられるように、神は呼びかけて言われるのです——「さあ今、命を選べ」と（申命記30章）。世界教会協議会釜山総会は、この神の「今」が切迫していることを思い出させられました。「今」は終末論的な時、「メタノイア（回心）」の時、恵みが溢れる時です。教会として、私たちは自分たちを教育し、命を選ぶように変わらなければなりません。核弾頭の眩い閃光や、原子炉の死の光を捨てて、自然世界の健全なエネルギー源——太陽、風、水、そして地熱——を選択しなければなりません。私たちは、それらのエネルギー源の中に生きているのですから。これこそ、核をはじめとする危険から脱出する道・出エジプトの道なのです。

「核（原子力）エネルギーによって、私たちは、有り余るほどの甘美な享楽を手にした。今や私たちは、原子炉を止めることと、放射性廃棄物を処理することの、苦渋に満ちた歩みを始めなければならない。」これは、WCC釜山総会に先立ち、韓国のキリスト者が信仰の声明として公表した言葉です。「核軍備に支えられた既存の体制を守るのではなく、全ての人間と被造物を思って命を守ることの必要性を、私たちは、執拗に声明する次第である。」と、この声明は続きます。

神は私たちのために命・正義・平和への道を用意されました。それは、自己の破壊と、暴力と、戦争から遠ざかる道です。このことを深く胸に刻み、第十回世界教会協議会釜山総会は、世界中の教会に対し、正義と平和を目指すエキュメニカルな巡礼の道に参画し、それを強めて行こうと、呼びかけました。（次号に続く）

現地支援委員会より

現地支援委員長 金丸 真（仙台長命ヶ丘教会）

12月に入り、東北は寒い冬を迎えています。この冬、特に被災された方々の仮設住宅での生活が守られるようにお祈りください。

仮設住宅は「仮設」ですから、耐用年数はそんなに長くありません。場所によっては壁と天井が離れ始めている仮設住宅もあり、この冬の寒さをどう乗り切るのが課題です。また、仮設住宅は、使用できる土地に緊急に建てられたので、山林に囲まれた場所に建てられた仮設住宅は、この季節、午後の早い時間にはもう日が当たらなくなります。寒さだけでなく日当たりの問題で、洗濯物をストーブで乾かさざるを得ない状況もあり、火事の心配もあります。また、雪や道路の凍結により、被災地に訪問支援に向かうわたしたち教会の者が、途上の安

全にも気を付けなければいけません。

仮設住宅で4回目のクリスマスとお正月。仮設住宅での生活が長引いている方の精神的な疲れや不安は大きくなっています。仮設住宅で亡くなる高齢者も増えてきました。震災後、必死に生活を続け、自宅の再建を夢見つつも仮設住宅で人生を閉じられた方々の思いを想像すると、言葉もありません。また放射性物質の汚染によって命が破壊され、地域が分断され、人と人が分断されている現状、また原発事故が収束しない現状は、さらなる痛みを生み続けています。

どうかクリスマスの希望の光が、痛みの中にある方々に輝きますようにお祈りください。

皆様のご支援に感謝して！

